

研究テーマ	[I 造形教育で培う力を考える] 豊かな色彩表現の能力を育てるための制作過程の工夫 ～中学1年生 「自然の表情 一版多色木版～」の実践を通して～
-------	--

笠間市立友部中学校 教諭 富岡 典子

1 研究テーマについて

「描くのは好き，でも絵の具で塗るのはうまくいなくて絵を苦手を感じる。」「描くことは楽しいけど，絵の具で塗るときになると気分が乗らない。」1年生の多くが，小題材「空き缶スケッチ」の彩色前につぶやく言葉である。これは絵画制作の過程において，鉛筆などによる描く作業までは順調に進めても，絵の具を使った彩色中の小さな失敗が原因で意欲を失くしたり，集中力を欠いたりするなど，絵の具を使うことに対する不安や不満を抱えていることの表れである。美術に対する意識調査の中でも嫌いの理由の上位に挙げられている。

そこで，3年間の美術を通してより多くの生徒が彩色活動を楽しみと感じるとともに，完成時の満足度につながりやすい活動，題材の設定はできないかと考えた。

今回の改訂の要点の中から（2）内容の改善に着目すると，ア表現領域の改善，特に「A表現」の中の「(1)感じ取ったことや考えたことなどを基に，絵や彫刻などに表現する活動を通して，発想や構想に関する次の事項に関する次の事項を指導する。」と「(3)発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して，技能に関する次の事項を指導する。」を中心として発想や構想の能力と創造的な技能の視点から考えることにした。また，新たに設けられた〔共通事項〕についても，題材を設定する上で適切に位置づけていく必要がある。

各領域の指導について，〔共通事項〕を位置付けた例が示されている。『「A表現」(1)では，主題を生み出す場面で，形や色彩の性質や，それらがもたらす感情に着目させて対象を多様な視点でとらえたり全体のイメージをとらえたりするなど，どのような感じを表現したいのか主題を深く考えさせる。また，構想の場面で，自分が表現したいことを具体的にアイデアスケッチなどで表すときに，形や色彩，材料，光などの造形的な要素を意識させて「奥行きが感じられる形」，「落ち着いた感じの配色」などを考えさせたり，主題に照らして全体のイメージをとらえさせながら構想を練らせたりすることなど』が挙げられている。『「A表現」(3)では，創造的な技能を働かせる場面で，形や色彩，材料などがもたらす感情など〔共通事項〕を意識させて，技能を働かせることなどが考えられる。単に作業的に「赤色で花びらを塗る」，「木を削る」といった技能ではなく，「柔らかい感じが出るように赤い花びらを塗る」，「なめらかな感じが出るように木を削る」など，表したい感じを意識させることが大切である。また，制作が進む中で，全体のイメージをとらえ，自分の表したい感じが表現されているかを確認しながら制作を進め，常に自分の表現を振り返ることが重要である。』としている。

以上の具体的事例と本校の実態をふまえると，第1学年における基礎的・基本的な活動を通して，色彩に対する意識や捉え方をきちんと押さえていく必要があると考えられる。そこで，題材を「一版多色木版」に設定し，制作過程を工夫することで，豊かな色彩表現の能力の基盤を培っていきたい。

2 実践例

(1) 題材名 自然の表情 一版多色木版

(2) 題材の目標

- ・ 自然の表情から感じ取ったことや版表現の特徴や味わいをもとに発想を広げ，主題を生み出そうとする。
- ・ 版の特性を理解し刷りの効果を生かすとともに，表現意図に合う形や色彩を工夫して表現することができる。（重色）
- ・ さまざまな版表現のよさや工夫を味わうことができる。

① 題材観

自分の思いや感動を作品に表したいという意欲をもって豊かな色彩表現をするためには、モチーフに多様な色彩が存在すること、かつ誰もが身近に感じられるテーマであることが重要となる。そこで「自然の変化」を取り上げ、季節はもちろん、一日の中でも刻々と変化する自然界の色に着目させたいと考えた。これまでの生活体験の中で心に残る場面を想起させるとともに、画像や映像など、具体的な資料を通して追体験することで、「色づくり」にこだわった活動にしたい。そのためには、〔共通事項〕に記載されている内容をふまえ、概念的、常識的な色の表現にとらわれることなく、自分の目と心で深く観察しそれぞれ固有の彩りの特徴をとらえ、感じた色などを素直に表現することが大切になってくる。絵は写真と異なり自分の表したい形や色彩で画面をつくっていくところに特質があるが、必ずしも固有色にこだわらず自分の表したい色彩で表してよいことを指導することによって、実際に様々な色を見たりつくったりして色に対する体験を豊かにし、表現への抵抗感を少なくしていきたい。

題材名を「自然の表情」とすることで、同じ場面、同じ色であっても感じ方の違いで見えてくる表情は変わってくる。そんな感情を読み取った上でイメージに合った色づくりを行うことに適した題材であると考えた。

1年生の授業においてポスターカラーを用いた制作活動では、自然物による平面構成を題材設定することが多いが、今回の色彩表現のねらいが整理された多色表現ではなく、自分の表現にあう色づくりのこだわりや重色の刷りによる色の広がりを経験することに重きを置いた題材にした。

また、今までに経験したことのない制作過程として、黒い画面に順序良く色彩表現ができるという新しい表現活動を体験させたい。一版多色版画という版画技法が、形（色面）、色、色面の粗密、構図など、作品を構成する様々な造形要素のありようを制作段階ごとに細分化しながら表現することに適していることから、生徒がこの題材で主題を生み出し、自主的に制作活動することで、豊かな色彩表現の能力を伸ばすことに適していると考え、設定した。

② 生徒の実態

第1学年の生徒は、1学期に学習した「折り紙による切り絵」、「空き缶スケッチの着彩」、「ポスターカラーの混色による平ぬり」、「自作の色相環を用いての色についての学習」に対して、意欲的に取り組む生徒が多く見られた。また、授業においては自分の表現において積極的に混色し、彩色しようと努力する生徒も多い。

しかし、学年が進むと、研究テーマでもふれたように色彩表現に対して制作意欲が低くなる生徒が増加してくる。また、自主制作となる夏休みの課題のポスターにおいては、授業ではできていた平ぬりが不十分な作品や、完成度が著しく低い作品も多い。

③ 指導観

今回の一版多色木版の制作では、原画そのものが完成に大きく影響することを指導した。最後まで根気強く活動するためにも、妥協せずに自分が描きたい自然の様子を探し出す必要がある。単なる見た目の美しさに左右されることなく生徒自身が感じ取ったことや考えたことを制作にしていくためにも、自由に発想したり構想したりする時間を設けることで、内発的に主題が見出せるようにしたい。

そこで、構図と色づくりを意識させるために写真素材集を使って模写（再現）を行わせる。平面的ではなく、奥行きのある空間を意識した構図について学ぶ機会としたい。また、色づくりでは、絵の具の混色と違い、色面の重ねによる重色について学ぶ機会とし、版木から転写した際の微妙なかすれ具合を味わわせるために、色鉛筆を用いた重ね塗りを行う。下地の色がかすかに透けたときの色の味わいを体感することで、本番に向けた重ね具合の可能性について考えさせたい。

さらに、転写による重色の練習機会も設けたい。白い版紙ではなく黒い版紙に写したときの色味の出方だけでなく、水の量や置くポスターカラーの量についても体感的に理解できるようにしたい。

(4) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
主題を生み出し、主体的に取り組もうとする。自分らしくよりよい表現を工夫しようとする。	自分が描きたい自然の様子を探し出し、自然の美しさが見る人に伝わるように、構図や配色を工夫して表現する。	資料や写真を参考にして、色、形、構図などを工夫し、作品に表現している。技法の特質を生かして表現する。	作者の意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り、理解するとともに見方を深めることができる。

(5) 指導と評価計画 (17時間扱い)

※○印は時数

順	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ④	<ul style="list-style-type: none"> ・過年度の生徒作品を鑑賞する。 ・一版多色版画の制作過程を理解する。 ・自然の美しさに興味や関心をもつ。自分が美しいと思う場面のアイデアスケッチをいくつか描き、その中から1つ選び、図案を描きあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品から作者の気持ちや考えがどのように表現されているかを読み取ろうとする。 ○【観察・ワークシート】 ・自然の美しさに興味や関心を持ち、自分が美しいと感じる資料を参考にしてアイデアスケッチを描いている。 ○・○【観察・ワークシート】 ・アイデアスケッチの中から、完成を見通して構図や配色を考えて原画(図案)を描いている。 ○【作品・学習カード】
第2次 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・反転の必要性を考え、図案を準備し、版木に転写する。 ・転写した図案の線を三角刀や丸刀で線彫りする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・版木に用紙をしっかりと留め、図案を転写する。 ○【版木】 ・安全に正しく彫刻刀を使い、図案の線通りになるよう線彫りする。 ○【観察・版木】
第3次 ⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターカラーを適量の水で溶き、版木に置いて刷る。 ・一度刷りではなく、必ず重色を施す。(本時) ・2つ以上作品を制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターカラーを平ぬり程度の滑らかさに溶き、ほどよい量を版木に置く。手際よく刷る。 ○・○【観察・作品】 ・より美しい作品となるように重色する。 ○・○【観察・作品】
第4次 ③	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を相互鑑賞し、互いの表現のよさや個性などを認め、尊重しあう。 ・作品を額装して、鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品から自分のよさや個性を感じたり見つけたりする。 ○・○【学習カードの記述】 ・友達作品を鑑賞し、作品の美しさや表現の工夫などよさ見つけて、伝えようとする。 ○・○【ワークシート】

5 本時の展開

◇目標

作品に自分の表したい感じが表現されているかを確認しながら刷りの制作を進め、イメージ通りの色づくりにこだわり、重色の仕方を工夫することができる。

◇準備・資料

ポスターカラー、版木(作品)、混色カード、バレン、学習カード、写真素材、参考作品、教科書、資料集、クロッキーブック、筆記用具

◇展開

学習活動・内容	教師の支援・評価 ○発問 □評価
<p>1 学習課題を確認する。(全体)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> イメージ通りの色づくりにこだわって、重色の仕方を工夫しよう。 </div> <p>2</p> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 2px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">重色の仕方を工夫しよう</div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">表現したい色のイメージづくり</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">色づくり</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; font-weight: bold;">こだわりの</div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">水の量</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">重ね順による効果の違い</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; font-weight: bold;">試行錯誤</div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">絵の具の量</div> </div> <div style="border: 2px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">3分間のミニ鑑賞会</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 5px;">振り返り</div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 5px;">アドバイス</div> </div> <div style="border: 1px solid gray; width: 100px; height: 100px; margin: 10px auto; transform: rotate(45deg); transform-origin: center;"></div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">まとめ</div> <div style="border: 2px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">重色の効果・美しさを味わう</div> </div> <p>3 本時のまとめをする。(全体)</p>	<p>・休み時間のうちに、準備を済ませる。 デザインセット バレン 筆洗 混色カード</p> <p>・振り返りしやすいように、参考資料としてスケッチブックや写真を傍らに置く。</p> <p>○表したい美しさやよさを表現するために、重色の仕方を工夫しましょう。</p> <p>・筆を使い分けて、手際よくポスターカラーを置く。</p> <p>・細部を先に行い、手応えを感じながら、こだわりたい部分を重色するように勧める。</p> <p>・空間の奥行きや広がりのある構図で表現されている作品は、さらに立体感が増すように明度を調整して重色をするよう助言する。</p> <p>・草花や山肌など同系色の場合は、混色カードを参考にして彩度を調整して重色をするように助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 図イメージ通りの色づくりにこだわって、重色の仕方を工夫することができた。 (作品・学習カード) </div> <p>・色づくりが停滞している生徒には、混色カードを活用し、色を考えたり、選んだりするように指導する。</p> <p>・イメージ通りの重色ができずに停滞している生徒には、共に作業をして重色の仕方を指導する。</p> <p>・3分間のミニ鑑賞会として、制作途中の作品を相互鑑賞し、よさや美しさなどの価値の多様性に気付く。</p> <p>・参考写真や、色鉛筆で重色をしたスケッチと作品とを見比べて、色彩表現の工夫について話し合える場を設定する。</p> <p>・本時のまとめは、自分の言葉で学習カードに記入させる。</p> <p>・次時の学習の内容を確認する。</p>

成果と課題

(1) 実践の成果

この題材の制作活動を通して、生徒自身が豊かな色彩表現を体験し、一人一人の価値を創り上げ、同時に他者理解に努めることができたことは、作品や学習カードの記述からうかがえる。多色刷り版画の特性を生かし、何度でも色彩表現に挑戦することが意欲的な制作活動につながり、作品完成の喜びや達成感、満足感を味わうことができた。

また、「自然の表情」という主題の捉え方においても一人一人の美に対する価値の多様性が見られ、制作活動中から友達の作品に興味をもち、作品に対するこだわりや思いを話し合う場面が見られた。水彩画作品では水の量の調整ができずに淡い色調で印象の弱い作品になりがちな生徒も、この題材では平ぬりに適した濃度になるようたくさん色づくりをしたことで手際よく作れるようになった。そのほかに、混色カードを活用したり重色を施したりして、より豊かな色彩表現に取り組むことができた。作品の多くは全体的にしっかりと色が映え、遠くから見ても存在感があり、線彫りの輪郭線と相まって画面構成上も色彩の面からもバランスが調っていた。

鑑賞後、完成した作品を「みんなに見てほしい作品」として廊下に掲示した。作品展は保護者にも好評で、生徒はさらにつくる喜びを味わうことができた。また、作品を大切に作る指導の一環として、簡易な木製フレームを用意し、家庭で飾れるようにした。これは、新たに作品を引き立てる額や背景色の効果についても意識することができた。

(2) 今後の課題

- ◇ 生徒が主体性をもって題材の主題をつかむために、初発のイメージをワークシートに自分の言葉で書き込むことで発想を展開させたい。また、多様な発想を出し合うことができるよう、発想や構想の時間を話し合い活動を取り入れていきたい。
- ◇ 版画による絵画表現は、多くの時間を必要とすることが問題となるため、より短い時間で題材が構成できるように、活動内容の精選と改善の必要がある。
- ◇ 3年間で培う能力についての重点化と題材の配置を見通しながら、今後も年間指導計画の構成を工夫していきたい。

参考文献

- ・中学校学習指導要領解説美術編 文部科学省 平成20年9月
- ・美術資料 茨城の美術 秀学社
- ・平成24年度版観点別学習状況の評価規準と判定基準 図書文化 2012年3月10日
【監修】北尾倫彦 【編集】小泉 薫